

法文学部



法経社会学科／人文学科

藩学造士館、旧制第七高等学校の系譜を引く法文学部は、現在、法経社会学科（法学コース、地域社会コース、経済コース）、人文学科（多元地域文化コース、心理学コース）の2学科5コースを擁する南九州唯一の人文社会系総合学部となっている。

本学部では、「広く学ぶ」「深く学ぶ」「学びを活かす」という「3つの学び」を実現し、各コースの履修モデルにしたがった実践的できめ細かな専門教育と、学際的な知識と現場感覚を身につける「法文アドバンスト科目」などの教育プログラムを展開することで、総合的な観点から人間と社会を深く理解し、情報化、国際化および地域社会の変化にともなう諸問題に適切に対処できる現実的な課題解決能力を持った人材の育成を目指している。

教育学部



学校教育教員養成課程／特別支援教育教員養成課程

教育学部は、明治初期に源をもつ各師範学校等、教員養成機関としての長い歴史を通じて、鹿児島県はもとより、全国の教育界など広く社会に有為の人材を送り出してきた。平成29年4月に、主に小・中学校、高等学校の教員を育成する学校教育教員養成課程（初等教育コース、中等教育コース）と特別支援学校等で活躍する人材を育成する特別支援教育教員養成課程の2課程に改組し、教育に関する深い理解と指導力、そして豊かな人間性の形成を目指している。

理学部



数理情報科学科／物理科学科／生命化学科
／地球環境科学科

「理学」は、自然現象の中に潜む真理を探究する学問であり、そこで明らかにされた自然法則は人類の英知や文化の中に蓄積され、科学技術の発展を支えてきた。こうして現代社会は豊かなものになったが、豊かさの裏では環境やエネルギーなどに関する新たな課題も生じた。このような問題を解決するためにも、真理の探究と共に、物事の原理を基礎から理解する「理学」のさらなる進展は不可欠である。鹿児島大学理学部は、南九州という自然に恵まれた地理的特色を生かしながら、基礎科学を中心とする自然科学の最新の教育・研究を進める。

〈育成する人材像〉

- * 自然科学の専門知識と幅広い教養を併せもち、論理的科学的思考力を身につけた人
- * 学問の高度化や多様化に柔軟に対応できる、創造力のある人
- * 社会性、国際性、学際性が豊かで、先端科学の知識と問題解決能力を身につけた人
- * 高い倫理観をもって人類の幸福と福祉に貢献できる人

医学部



医学科／保健学科

医学部は、明治2(1869)年にウィリアム・ウィリスを校長として設立された島津藩医学校を前身とし、昭和18(1943)年に医学科の母体となる県立鹿児島医学専門学校が開校された。その後幾多の変遷をたどり、昭和30(1955)年に鹿児島大学医学部となった。平成10(1998)年には保健学科が設置され、現在では医学科と保健学科の2学科で構成されている。これまでに、両学科を合わせて約9,000人の医療人を輩出し、日本各地で医学・医療の進歩と国民の健康と福祉のため多大な貢献をしている。

本学部では、人間性豊かな、地域に貢献する、研究心旺盛な、国際的視野に立つ医学・医療を担う人を育成することを目指している。

歯学部



歯学科

歯学部は、沖縄を含む南九州地域における唯一の歯科医学教育・研究施設として、歯科医療の中心的役割を果たすべく、昭和52(1977)年10月に設置され、平成29(2017)年に創立40周年を迎えた。

本学部では、生命科学の原理を理解し、科学的探究心と問題解決能力を身につけるとともに、各種口腔・顎顔面領域の疾患の診断、予防、及び治療に関わる知識と技能を修得することを、教育目標としている。また、県内離島の歯科巡回診療同行実習や海外の大学での短期研修などを通して、地域医療の重要性を理解し、コミュニケーション能力を備えた国際的視野を有し、ローカルにもグローバルにも活躍しうる人材を育成している。同時に、良識ある人間形成に繋がる教育を心がけ、全人的歯科医療の実践者としての歯科医師及び歯科医学教育者・研究者の育成を目指している。

工学部



機械工学科／電気電子工学科／建築学科
／環境化学プロセス工学科／海洋土木工学科
／情報生体システム工学科／化学生命工学科

工学部の母体である鹿児島県立工業専門学校は、工業専門の理科系学徒の教育を目的として昭和20(1945)年4月に設置され、同30(1955)年に国立移管された。

本学部は、工学の面白さを学びたい、ものづくりに取組みたい、技術開発に挑戦したい等の夢をもつ一人一人の学生に、幅広い教養と高度な専門能力を授け、獲得した知識や技術等を統合的に活用することにより、実社会における課題解決のために応用できる知恵として身につけることができる教育に心がけている。今日まで連綿と国際的な通用性を踏まえた教育改革を進め、グローバルに活躍できる工学系人材として必要な基礎的能力を育む教育を実践している。

また、本学部は、我が国のものづくりの主要な分野を網羅する7学科編成で、社会の変革を担う人材育成、知的基盤の形成やイノベーションの創出などに寄与する「知の拠点」としての展開に取り組んでいる。

農学部



農業生産科学科／食料生命科学科／農林環境科学科
／国際食料資源学特別コース(農学系サブコース)

農学部は、明治41(1908)年開設の鹿児島高等農林学校に始まり、昭和24(1949)年鹿児島大学農学部となった。日本有数の食料生産基地に位置する本学部は、農業生産科学科(3教育コース)、食料生命科学科(3教育コース)、農林環境科学科(2教育コース)の3学科ならびに特別コース(農・水産分野からなる国際食料資源学特別コース)から構成され、附属施設として、附属農場、附属演習林および附属焼酎・発酵学教育研究センターを有している。温帯から亜熱帯へ南北数百kmに及び多様な自然環境と生物資源に恵まれた地域の特性を生かして、食、農、地域資源、環境、生命に関する教育を行っている。また、フィールドでの教育、地域産業と連動したキャリア教育を重視し、豊かな人間性、現場での実践力、優れた応用力、広い視野と国際性を備え、地域社会と発展途上国に貢献できる技術者・指導者を養成している。

水産学部



水産学科／国際食料資源学特別コース(水産学系サブコース)

水産学部は、鹿児島水産専門学校を母体として昭和24(1949)年に誕生した。「海を恐れず、海を愛し、海を拓け」をモットーに、鹿児島から東南アジア・南太平洋を含む海洋や陸水域をフィールドとし、水産資源の持続的生産とその合理的利用、水圏環境の調査と保全、生活文化の創出の分野で、地域社会と国際社会に貢献する人材を育成することを教育の目的としている。食料生産の確保と海洋環境の保全といった時代の要請に応えるため、水産海洋科学分野において、高度で先端的な教育を受けた技術者を養成し、鹿児島は勿論のこと、熱帯・亜熱帯水域の発展途上国で活躍できる、国際的視野を持った卒業生を送り出している。また、ISO9001認証に準拠した独自の教育システムを運用している。平成27年には、カリキュラム改革に伴い、教育分野を再編成した。また、農学部と連携した国際食料資源学特別コースを設置し、グローバル人材の育成を強化している。

共同獣医学部



獣医学科

共同獣医学部は、昭和14年に鹿児島高等農林学校に創立された獣医学科を前身とし、農学部獣医学科を経て、平成24年に鹿児島大学9番目の学部として設置された。本学部では欧米水準を目指した獣医学教育を山口大学との共同教育課程により行う。豊かな人間性と正しい倫理観を持ち、行動規範に従って職務を遂行し、国際社会に貢献できる専門性の高い獣医師の養成を目指している。教育病院である附属動物病院には、小動物診療センターに加え、大動物診療センター、軽種馬診療センター、大隅産業動物診療研修センターを置く。また、我が国屈指の畜産地帯を背景に、高病原性鳥インフルエンザや狂犬病などの越境性動物疾病の研究を行う附属越境性動物疾病制御研究センターも設置されている。

人文社会科学研究科

人文社会科学研究科は、平成10年、既に開設されていた法学研究科(昭和54(1979)年設置)、人文科学研究科(昭和61(1986)年設置)を発展的に解消して設置された。現在は博士前期課程4専攻(法学専攻、経済社会システム専攻、人間環境文化論専攻、国際総合文化論専攻)および博士後期課程1専攻(地域政策科学専攻)からなっている。

本研究科では、各専門分野における高度な研究・教育を行うとともに、プロジェクト研究を中心とする地域に密着した実践的な研究に取り組んでいる。また、昼夜開講制による社会人学生の積極的な受け入れや、奄美サテライト教室(奄美大島、徳之島分室)を通じた離島地域での授業開講、外国人留学生特別選抜指定校推薦入試(秋入学)による留学生の受け入れなど、社会のニーズに積極的に応えている。さらに、博士前期課程では中学校および高等学校教諭専修免許の資格を取得することができる。

博士前期課程

- 法学専攻
- 経済社会システム専攻
- 人間環境文化論専攻
- 国際総合文化論専攻

博士後期課程

- 地域政策科学専攻

教育学研究科

教育学研究科は、平成29年4月にこれまでの修士課程(教育実践総合専攻)に加え、新たに専門職学位課程(学校教育実践高度化専攻)が設置された。

教育実践総合専攻は、地域や現実の課題に即した総合的な講義や研究方法の指導により、視野の広い教員等の人材を養成することを目指している。所定の科目を履修すると修了時に修士(教育学)の学位が与えられる。

学校教育実践高度化専攻は、これからの時代に求められる高度な教育実践と生涯学び続ける省察的实践家としての教師のあり方を具体的に体現する高度な専門職業人の養成を目的とする。所定の科目を履修すると修了時に教職修士(専門職)の学位が与えられる。

また、小学校・中学校・高等学校教員の一種免許状を所有していると、専修免許状を取得することもできる。

修士課程

- 教育実践総合専攻

専門職学位課程

- 学校教育実践高度化専攻

保健学研究科

保健学研究科は、看護学・理学療法学・作業療法学に関する高度な専門知識・技術をもつ高度専門職業人ならびに優れた教育や研究のできる指導・管理者および離島や国際的な保健・医療に貢献できる人材を養成し、併せて教育研究の成果および情報を社会に広く提供し貢献することを理念として、平成15年4月に博士前期課程、平成17年4月に博士後期課程が設置された。

本研究科では、(1)高度専門職業人の育成、(2)医療専門職としての質の高い教育・研究者の育成、(3)学生の能力開発に効果的な教育や独自の研究ができる人材の育成、(4)離島・へき地を含めた地域の保健・医療において指導・管理者として実践できる人材の育成、(5)国際保健医療活動を推進できる人材の育成、を教育目標としている。

なお、平成24年度には放射線看護専門コース(定員2名)を、平成26年度には助産学コース(定員7名)を博士前期課程(看護学領域)に設置した。

博士前期課程

- 看護学領域
 - 理学療法・作業療法学領域
- 博士課程・博士後期課程
- 保健学

理工学研究科

理工学研究科は、「真理を愛し、高い倫理観を備え、自ら困難に挑戦する人格を育成し、時代の要請に対応できる教育研究の体系と枠組みを創成することによって、地域ならびに国際社会の進展に寄与する」という教育研究理念のもと、理工学の基礎から応用にわたる学術の真理と理論を教授研究し、その深奥を極め、社会の発展に寄与する高度専門職業人の育成を目的としている。

そのために、今日の諸課題に対応できる倫理的判断力および人間生活を取り巻く自然についての総合的知識を有し、自然科学に関する学問の高度化と多様化に幅広く柔軟に対応可能な次世代を担う技術者、研究者、高度専門職業人を養成しつつ、地域社会との連携と世界に開かれた研究科であるように努めている。

博士前期課程に10専攻、博士後期課程に1専攻を設置し、自然科学の深化および理学と工学の融合により科学創成をリードする教育研究活動を展開している。

博士前期課程

- 機械工学専攻
- 電気電子工学専攻
- 建築学専攻
- 化学生命・化学工学専攻
- 海洋土木工学専攻
- 情報生体システム工学専攻
- 数理情報科学専攻
- 物理・宇宙専攻
- 生命化学専攻
- 地球環境科学専攻

博士後期課程

- 総合理工学専攻

農学研究科

農学研究科は、昭和41(1966)年に開設され、現在、生物生産学専攻、生物資源化学専攻および生物環境学専攻の3専攻が設置されている。わが国有数の食料生産基地を抱え、かつ温帯から亜熱帯に分布する多様な生物資源と自然環境などを生かし、自然環境に調和した食料生産技術の開発、生物機能の解明と応用、自然生態系の保全と修復、農山村社会の活性化などに関する研究に取り組んでいる。また、バイオテクノロジーや先端技術を導入し、農林食産業分野における新技術の開発を中心とした教育研究を行っている。農林・食産業を取り巻く状況を把握し、広い視野と倫理観を持って科学技術を応用し、豊かな専門性と実践力・創造力、地域が抱える特色や課題に積極的に取り組む高度専門技術者の養成、さらに博士後期課程へ進学する発展的研究者を養成している。

修士課程

- 生物生産学専攻
- 生物資源化学専攻
- 生物環境学専攻

水産学研究科

水産学研究科では、水圏科学、水産資源科学、食品生命科学、水産経済学、水圏環境保全学の分野で高度技術者・研究者を養成するための研究と教育が行われており、修了者は水産企業や食品企業、研究機関などで専門的な仕事についている。この修士課程を修了した大学院生の中には、引き続き大学院連合農学研究科(博士課程)等に進学する者もいる。中国、東南アジアや中東、アフリカ、中南米からの留学生も多く、修了に必要な全ての学修を英語で行える留学生プログラムもある。

東南アジアの各大学との大学院生レベルでの交流事業も活発に行われており、平成27年度からは「熱帯水産学国際連携コース」がスタートした。アジア各国の研究科が開設した熱帯水産学国際連携プログラムでの学修により、グローバルな視野を有する国際的に通用性の高い人材の育成強化に努めている。

修士課程

- 水産学専攻

農林水産学研究科(平成31年4月1日改組予定)

大学院農学研究科及び大学院水産学研究科の改組計画について

大学院農学研究科(修士課程)及び大学院水産学研究科(修士課程)は、平成31年4月より大学院農林水産学研究科(修士課程)へ統合・再編成し、次の4専攻体制に移行します。

なお、現在設置構想中であり、今後変更があります。

修士課程

- 農林資源科学専攻
- 食品創成科学専攻
- 環境フィールド科学専攻
- 水産資源科学専攻

医歯学総合研究科

医歯学総合研究科は、疾病の予防と治療を使命とする医学と歯学を有機的に結合して、生命医療科学領域における先端的研究と高度の教育を遂行し、多様な社会的要請に迅速に対応することを目指しており、平成15年4月に大学院博士課程(健康科学専攻および先進治療科学専攻)、平成16年4月には修士課程(医科学専攻)が設置された。本研究科は、(1)生命科学領域の教育研究のリーダーの育成、(2)地域の特性を生かした生命医療科学領域の教育研究拠点の創出、(3)専門性を備えながら医の倫理観を備えた生命医療人の育成を目標としている。

本研究科には、現在、11講座(63研究分野)、3プロジェクト講座、3連携講座のほか、鹿児島県に多い離島やへき地の医療に携わる人材育成を目指した離島へき地医療人育成センター(平成19年4月)や、本研究科の優れた研究シーズの非臨床・臨床開発と実用化への一体的な支援・推進を行う南九州先端医療開発センター(平成30年4月)を含む8研究センター、4寄附講座が設置されている。

修士課程

- 医科学専攻

博士課程

- 健康科学専攻
- 先進治療科学専攻

臨床心理学研究科

臨床心理学研究科は、臨床心理分野専門職学位課程であり高度専門職業人の臨床心理士養成を主眼に平成19年度に国立大学初の独立研究科として設置され、学位は臨床心理修士(専門職)である。教育理念に(1)個別支援、集団支援、地域文化を理解した地域支援、危機介入支援ができる人材(2)教育、福祉、医療、司法矯正領域等で即戦力となる人材育成を掲げ、21世紀の国民のこころの健康に寄与することを目的としている。理論と実践を架橋すべく学内・学外実習を充実強化した2年間の教育課程を編成し、講義・演習・実習を連動させた個別・少人数制の指導を展開している。該当者には公認心理師受験資格も提供している。

入学定員は15名で、修了後は全国で公務員、教育委員会、児童養護施設、精神科や一般病院、家庭裁判所調査官補や少年鑑別所技官などの心理職に就き、10期生まで100%の就職率及び臨床心理士資格取得率98%の実績がある。

専門職学位課程

臨床心理学専攻

共同獣医学研究科

共同獣医学研究科は、平成30年4月に鹿児島大学10番目の大学院として設置された。当研究科は、山口大学に設立された共同獣医学研究科と、修業年限4年間の共同教育課程(博士課程)を組み、2つの教育コースを設けている。一つは獣医科学コースで、我が国における次世代の欧米水準の獣医学教育を担う高度な研究者養成コースである。もう一つは獣医学専修コースで、実験動物の健康と福祉に寄与する実験動物医学専門医、病理学的診断により疾病制御を担う病理学専門家等の高度獣医学専門家、あるいは先端・高度な動物医療を担う指導者としての獣医療人を養成する。2つの教育コースとも修了要件を満たした場合、博士(獣医学)の学位が授与される。

博士課程

獣医学専攻

連合農学研究科

連合農学研究科は佐賀大学、琉球大学、鹿児島大学が連合し、それぞれの地域特性を生かした農学・水産学が学べる博士課程の大学院である。最先端のバイオテクノロジー技術を駆使して安全・安心な食料生産と生物資源の環境保全を目指す、農林水産学分野における高度な専門教育と研究を行っている。3つの専攻の中には農学・林学・農業工学・水産学を融合した農水圏資源環境科学専攻や、民間企業(タカラバイオ(株))との連携大学院を持つ先端応用生命科学連合講座など、特徴ある分野が設置されている。修了者には農学・水産学・学術のいずれかの博士号が付与される。学位修得者は、日本人以外に多くの留学生が含まれ、国内外の幅広い分野で、研究者、教育者、高度技術者として活躍している。

(注)連合農学研究科は、3大学(佐賀、琉球、鹿児島)で構成

博士課程

生物生産科学専攻

応用生命科学専攻

農水圏資源環境科学専攻

連合獣医学研究科

山口大学連合獣医学研究科は、鹿児島大学、鳥取大学、山口大学が連合して設置している修業年限4年の博士課程で、基幹校は山口大学である。

本研究科は、1専攻(獣医学専攻)で、基礎獣医学、病態予防獣医学および臨床獣医学の3連合講座から成る。学生の入学定員は12人で創造性豊かで高度の専門知識と能力を有する人材を養成する。学生1人につき、主指導教員1人、副指導教員2人が指導に当たる一方、他大学の教員ならびに学生相互の討論を通して、相互の親睦と連携感の形成に役立っている。毎年、海外からの留学生も多く受入れている。

なお、平成30年度からは、本研究科を発展的に解消し、鹿児島大学および山口大学それぞれに新たに共同獣医学研究科を設置した。

(注)山口大学連合獣医学研究科は3大学(鹿児島、鳥取、山口)で構成

博士課程

獣医学専攻

総合教育機構

総合教育機構は、本学における学士の質保証、共通教育の実質化と高度化、そして地域人材の育成を目的として設置された。具体的地域人材育成であり、以下の4センターから構成されている。

高等教育研究開発センター

高等教育研究開発センターは、我が国と海外の高等教育(≒大学)について研究し、これをベースとして現在の鹿児島大学が置かれた状況をデータに基づき的確に把握するための調査・検討を行う。また、全学的な教育カリキュラムの構築と改善、教育改革についての提案、教育の質保証に向けた教職員の能力開発などを実施している。限られた学内資源を有効活用して高い教育成果、学習成果を挙げるための方策を立案、実施する主体としての役割が本センターに期待されている。

すなわち、本センターの活動には、一般論として「大学において大学を研究する」という側面と、「鹿児島大学において鹿児島大学について調査・検討する」という側面がある。そしてこの2つの取り組みの成果を、鹿児島大学における教育の改善につなげていくとともに、我が国の高等教育の発展にも資することが、本センターの大きな役割である。

近年、上記のように「大学が大学自身を調査・検討すること」をIR(Institutional Research)、「教職員の能力開発を行うこと」をFD(Faculty Development)やSD(Staff Development)と呼ぶ。これらの活動のうち、FDやSDについては大学の義務であるとされ、本学においても全学や各学部のFD委員会を中心に様々な取り組みが行われている。本センターは全学FD委員会において、IRで得られたデータを活用しつつ、FD・SD活動の企画立案を担っている。

さらに、学部横断型の全学的な取り組みである「地域人材育成プラットフォーム」において、教育プログラムの構築及びコーディネートを担当するのも本センターである。この「地域人材育成プラットフォーム」は、成績評価のための各種ルーブリック、学習のプロセスと成果を管理するためのラーニング・マネジメント・システム(LMS)やe-ポートフォリオの導入などを通じて、地域人材育成の基盤というだけではなく、鹿児島大学における教育改革の重要な牽引役となる。その質的向上及び量の拡大は、本学の将来を左右する大きな試金石であるといえる。



▲平成28年度FD・SD合同フォーラム(鹿児島大学FD委員会・大学地域コンソーシアム鹿児島共催)



▲総合教育機構地域人材育成プラットフォームパンフレット

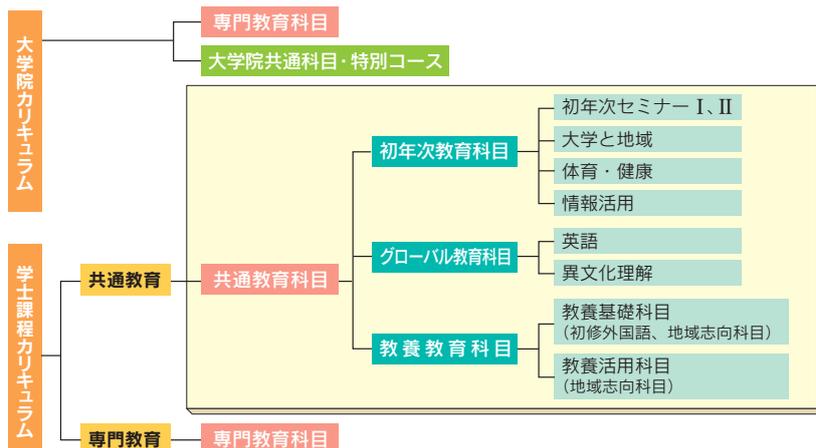
共通教育センター(共通教育)

平成15年10月に設置された教育センターは、平成29年4月の総合教育機構の設置に伴い共通教育センターと高等教育研究開発センターへ再編された。共通教育センターは、共通教育の運営及びその質保証・質的向上に責任を負う組織であり、全学協力体制に基づき実施する共通教育及び学芸員資格科目に関する企画・立案・実施、並びに教育に係る全学的な連絡調整等を行うことにより、鹿児島大学における教育の充実・発展を図ることを目的としている。

また、共通教育は、旧制第七高等学校時代以来連綿と引き継がれてきた学士課程教育の一つであり、大学での学び方や大学と地域との関わりを理解するとともに、自主自律的に学び続けるための基盤となる初年次教育、グローバル化が進む社会で貢献するための基盤となるグローバル教育、社会に貢献できる能力を養成するための教養教育をとおして、真理を愛し高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい国際社会で活躍しうる人材の育成を目指しており、鹿児島大学における教育の礎となっている。

鹿児島大学教育課程

(大きな枠内が共通教育センターの教育)



▲共通教育科目「屋久島の環境文化1-植生-」授業風景



▲共通教育棟1号館

には、入学者選抜方法の改善、全学的な教育の改革・改善と体系的カリキュラムの実現、グローバルな教育の展開、そして学部横断型の

アドミッションセンター

アドミッションセンターは、入学者選抜機能の検証、入学者選抜方法の改善、中長期的な入学者選抜方法の在り方の策定、学生確保に係る広報活動等を行うことにより、継続的に優秀な学生を確保することを目的として平成26年4月に設置され、活動を行っている。

【主な業務内容】

- 多面的・総合的な能力の評価を行う入試の実施へ向けた各種調査・検討およびシンポジウム等の開催
- 入試結果の分析・評価や入学後の学業成績の追跡調査等を通じた入学者選抜機能の検証
- 鹿児島県内各地での「鹿児島大学説明会(単独主催)」の開催をはじめ、高校および高校生と大学との相互理解を深める「高校訪問」の企画実施、高校等からの大学訪問の受け入れといった入試広報活動



▲トップセミナー「大学入学選抜改革の動向」の様子



▲「鹿児島大学説明会」の様子

グローバルセンター

グローバルセンターは鹿児島大学の教育と研究の国際化推進を目的に平成28年4月に設置された。次の3部門から成り、国際共同教育研究の促進を支援すると共に日本人学生の海外への留学、外国人留学生の受け入れを促進する。

キャンパス・グローバル化部門

- 国際プロジェクトの支援
- 海外の大学・研究機関との連携強化
- 国際社会に向けた情報発信

学生海外派遣部門

- 国際教育プログラム(P-SEG)の実施
海外研修、学術交流協定校、トビタテ!留学JAPAN等の派遣留学促進
- 海外留学に必要な情報の提供、相談・指導
- 日本人学生と外国人留学生の協働学習促進

外国人留学生部門

- 全学留学生向け日本語、異文化理解、日本文化教育
- 外国人留学生への生活・学習支援
- 留学生と地域との交流促進



▲シンガポール学生海外研修の様子



▲35カ国331名の外国人学生が留学中!

研究推進機構

本学は、第3期中期目標・中期計画期間において、南九州及び南西諸島の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化するため研究推進機構は、第3期中期目標・中期計画に基づき、地域活性化に繋がる研究力を強化するため、学内共同教育研究施設等の機能を学術研究の質的向上とその推進に寄与することを目的としている。

機構の下部組織として医用ミニブタ・先端医療開発研究センター、国際島嶼教育研究センター、難治ウイルス病態制御研究センター、

医用ミニブタ・先端医療開発研究センター

医用ミニブタ・先端医療開発研究センターは、鹿児島大学における前臨床研究(トランスレーショナルリサーチ)を主眼とした重点的研究課題を推進するセンターである。

生命科学における重点的先端研究課題を遂行するために、三つの研究分野が設置されている。

臓器置換・異種移植外科分野(山田和彦教授)では、先進医用ミニブタの開発と前臨床研究拠点形成を主たるプロジェクトとし、国内外における大動物(ミニブタ・サル)を用いた前臨床移植研究(Translational Transplantation Research)の中核拠点としての地位を確立し、特に「同種移植での免疫寛容誘導方法の確立と異種臓器移植の臨床応用を目指す」ことを最終的な研究目標として掲げ、臓器・細胞移植(同種・異種)および再生医療を中心とした研究課題を進めている。

遺伝子発現制御分野(佐藤正宏教授)では、遺伝子工学及び細胞工学的な方法を用いて、ブタ細胞のゲノム改変(遺伝子の強発現、標的遺伝子の破壊など)に関する新規技術の開発を展開している。この細胞を起点にブタからヒトへの異種移植が可能な医用ブタ及び疾患モデルブタの開発を目指している。他方、マウスを用い臓器や生殖細胞への生体内遺伝子導入法の開発も行い、発生工学の基盤技術開拓も手掛けている。

先端医療開発分野(松原修一郎准教授)では、癌幹細胞プロジェクトとして、浸潤・転移・再発の起点となり、癌の悪性形質を担う癌幹細胞に対する治療法開発の研究を行っており、今後はマイクロRNAやエクソソーム利用の可能性を検討する。また、確実に臨床にフィードバックできるトランスレーショナルリサーチとして、ミニブタを用いた内視鏡手術の教育と開発を行ってきた。

また産学官および一般市民を対象とした公開シンポジウムを積極的に開催することによって、研究プロジェクトに対する幅広い理解を得る機会を設けている。



▲国内初となる異種移植抗原をノックアウトしたGalT-KOブタ腎のサルへの異種移植の成功例(臓器置換・異種移植外科分野)



▲先進医用ブタの開発と前臨床拠点形成プロジェクト第3回公開シンポジウム「ブタの医用動物への展開」の開催(2015年3月24日)

国際島嶼教育研究センター

国際島嶼教育研究センターは鹿児島からアジア・太平洋に広がる島嶼域を対象にした教育・研究を推進している。学内の兼務教員と協力して島嶼域の諸問題について先進的な教育・研究をおこなうとともに、英文学術誌『South Pacific Studies』を発行して世界の島嶼学研究を牽引し、研究会やシンポジウム、公開市民講座を通して研究成果を地域に還元している。平成29年度はミクロネシアにおいて兼務教員とともに総合学術調査をおこない、研究会を9回、シンポジウムを2回開催した。鹿児島の島嶼域における研究成果については、高校生・大学生など将来の人材への育成や一般の方への知の還元のために『鹿児島の島々』『鹿児島大学島嶼研ブックレット』を発刊するとともに、英文書籍『The Amami Islands』や『The Osumi Islands』を出版して海外にも成果を発信している。また「島における教育」を積極的に実施しており、共通教育科目「島のしくみ」では与論島、大学院全学横断型教育プログラム・島嶼学教育コースの「島嶼学概論」では三島村硫黄島、「島嶼学概論II」では十島村中之島、「太平洋島嶼学特論」ではミクロネシア連邦・グアムにおいて一部講義をおこなっている。また、教員免許状更新講習を奄美大島において行っている。さらに、平成27年4月に奄美市に国際島嶼教育研究センター奄美分室を設置し、文化・社会・生物の多様な地域として発展してきている奄美群島で急務である多様性維持機構の解明と保全の活動を行っている。



▲大学院全学横断型教育プログラム・島嶼学教育コースのオープン科目「太平洋島嶼学特論」の様子(ミクロネシア連邦チューク州)

に大学の強みと特色を活かした学術研究をすることを基本目標の一つに掲げている。

を見直し平成29年4月に設置された。本学における研究推進に係る人的及び物的資源の有効活用を促進し、本学の強みと特色を活かし

研究支援センターの4施設を設置している。

難治ウイルス病態制御研究センター

難治ウイルス病態制御研究センターは平成5年度に医学部附属施設として設置され、平成15年度の大学院医歯学総合研究科附属施設への改組を経て、平成29年度から全学施設になった。現在、「抗ウイルス化学療法研究分野」、「分子ウイルス感染研究分野」、「分子病理病態研究分野」、「血液・免疫疾患研究分野」の4つの研究分野が設置されている。

センターでは、鹿児島県に多い成人T細胞白血病ウイルス（HTLV-1）を中心に、HIV-1、肝炎ウイルス（HCV、HBV）など慢性化する難治性ウイルスの診断・予防・治療に関わる研究を行っている。HTLV-1のキャリアは我が国では100万人以上と推定されており、南九州や沖縄に集中している。なかでも、鹿児島県には約20万人の感染者が存在し、鹿児島大学が総力をあげて取り組むべき重要な課題となっている。HTLV-1の感染が原因で起こる成人T細胞白血病・リンパ腫（ATL）は一旦発症すると致死的な造血器腫瘍だが有効な治療法は開発されていない。また、鹿児島大学で発見・命名されたHTLV-1関連脊髄症（HAM/TSP）は進行性の中枢神経疾患で、患者のQOLを著しく低下させる。センターには、ATLやHAM/TSPの患者から得られた貴重な臨床検体が多数保管されているので、これらのリソースを活用して国内外の研究施設との共同研究を推進し、新規診断治療法の開発を目指す。

全学施設への移行にあたり、桜ヶ丘キャンパスの大学院医歯学総合研究科、鹿児島大学病院のみならず、理工学研究科、共同獣医学部附属越境性動物疾病制御研究センター等との連携による全学的研究体制を強化して、難治性のウイルス疾患を撲滅するミッションに取り組んでいる。



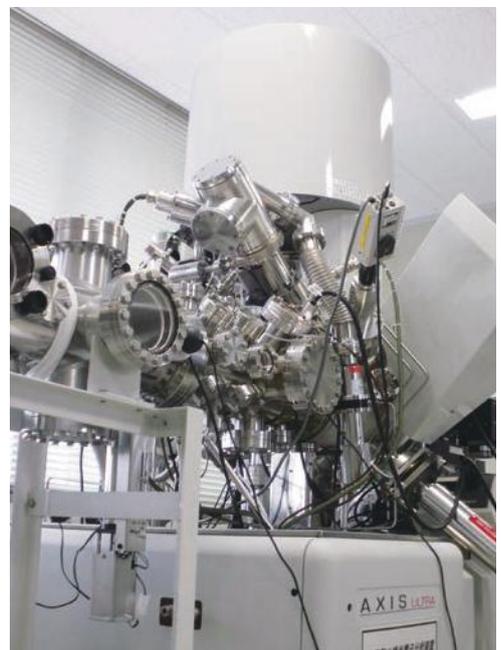
▲センター建物



▲センター実験室

研究支援センター

研究支援センターは、5施設から構成されており、高度先端研究機器・設備、遺伝子実験、動物実験及びRIを活用した教育研究を支援し、先端的な生命科学・自然科学の教育・研究・開発の進展に資することを目的としている。機器分析施設は、大型・高性能機器の計画的導入および集中管理による各種計測・分析機器の有効かつ円滑な共同利用を図っている。遺伝子実験施設は、遺伝子に関連する教育研究を行うための実験室、設備および解析機器類を整備している。動物実験施設は、実験動物および動物実験に関する教育研究、実験動物の品質管理および安全管理を行い、動物実験の適正化を図っている。アイソトープ実験施設は、放射性同位元素および放射線を利用する教育研究を推進するとともに、本学の放射線施設の安全管理を担っている。環境保全施設は、学内の廃液・排水等の適正な管理を行っている。



▲走査型X線光電子分析装置(島津AXIS-ULTRA DLD)

南九州・南西諸島域共創機構

南九州・南西諸島域共創機構は、教育、研究と並び、大学の重要な役割である社会・地域貢献の遂行を担っている。鹿児島大学における社会貢献に係る人的及び「産学・地域共創センター(旧産学官連携推進センター及び旧かごしまCOCセンター)」、「地震火山地域防災センター(旧地域防災教育研究センター)」及び「司法な目標である「南九州及び南西諸島域における地域活性化の中核的拠点」を目指し、自治体・企業との連携協力による共同研究・受託研究等を通じて地域の防災、

産学・地域共創センター

産学・地域共創センターでは、研究シーズと地域ニーズとのマッチング、自治体等との協働による地域課題の解決とその成果を活かした地域人材育成及び地域再生、事業化が見込まれる研究プロジェクトの支援、知的財産の創出、保護、管理及び活用、地域ニーズに即した生涯学習機会の提供等の活動を行っていく。更に2018年度から国立大学法人機能強化経費で措置された「南九州・南西諸島域の地域課題に応える研究成果の展開とそれを活用した社会実装による地方創生推進事業」を推進する。

■連携推進部門

- 本学で生まれた研究シーズと社会ニーズとのマッチングを図り、民間企業等との連携を通じた研究成果の社会還元、技術移転、社会実装の推進
- 共同研究・連携コーディネートの他、大学の研究成果等の情報発信、地域産業界等からの技術相談対応、外部資金等の獲得支援、自治体との連携プロジェクトの企画・立案などの活動
- 地域創生を支えるための地域人材育成

■知的財産・リスクマネジメント部門

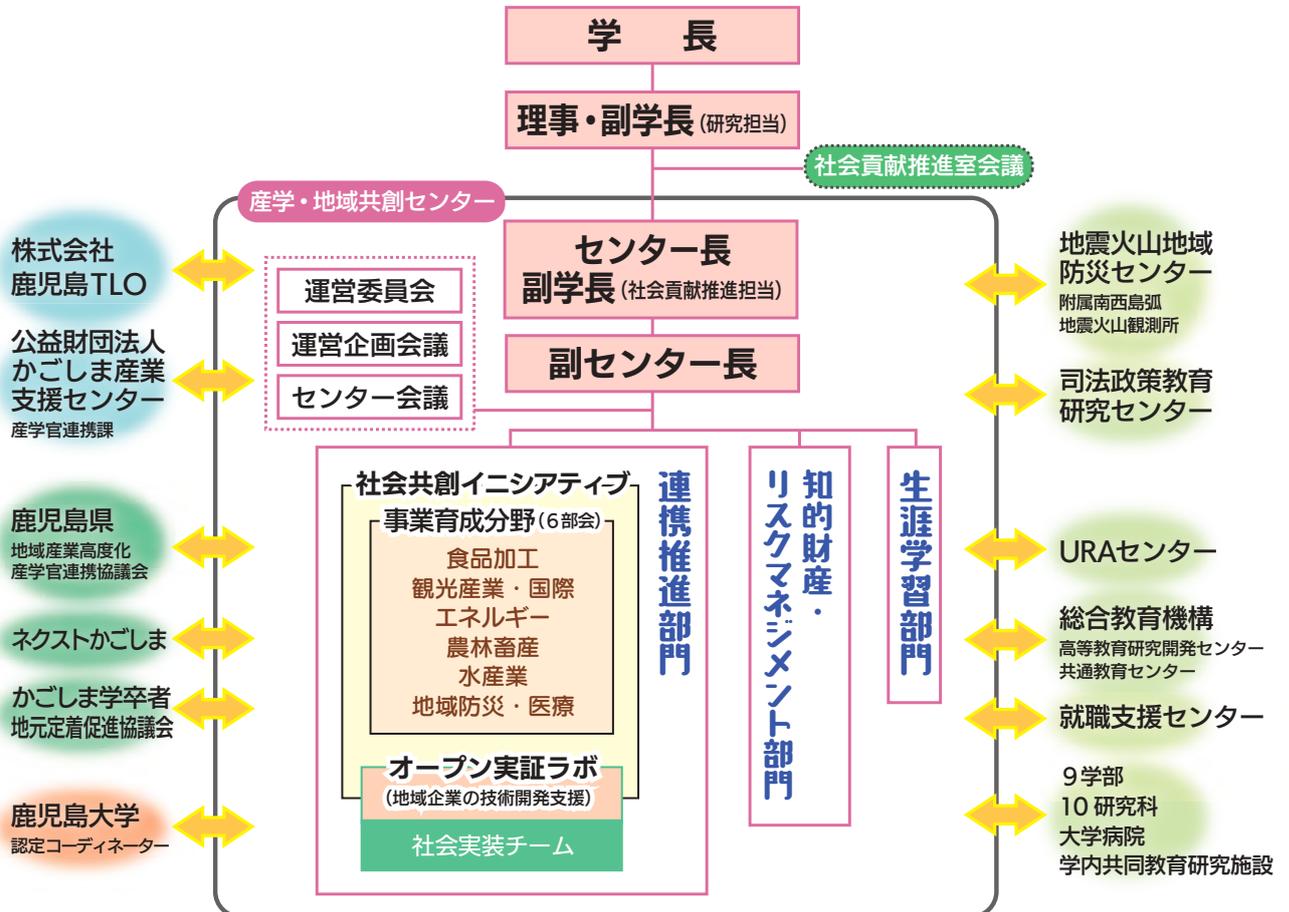
- 知的財産の創出、権利化、維持及び活用の戦略的な推進、知的財産に係る教育・啓発活動
- 産学官連携に伴い生じるリスクのマネジメント

■生涯学習部門

- 人口減少型社会を見据えた生涯学習の質的転換への取り組み
- 青年期教育と成人教育、教養教育と職業教育などを接続させた高等教育機関としての生涯学習推進
- 地域の生涯学習の再構築への学校、行政、民間などと協働しての取り組み



▲研究シーズ集 2017-2018



物的資源の有効活用を促進し、教育研究成果を活かした社会貢献活動の更なる推進を図るため、これまで独自の組織としてそれぞれ社会・地域貢献活動を行ってきた政策教育研究センター」の3センターをまとめ、平成30年4月に設置された。南九州・南西諸島域共創機構では、鹿児島大学の第3期中期目標期間における基本的医療、観光、エネルギー、製造業、農林水産業、水産業等に関する課題の解決、地域イノベーションの創出、その活動成果の教育への反映等の取組を行っている。

地震火山地域防災センター

南九州から南西諸島にかけては、地震・津波、火山噴火、豪雨、台風などに起因する様々な自然災害が発生している。地震火山地域防災センターは、それら自然災害の防止と軽減を図るため、災害の実態解明、予測、防災教育、災害応急対応、災害復旧復興等の課題に地域と連携して取り組み、地域防災力の向上に貢献することを目指している。また、平成30年4月から附属施設として、南西島弧地震火山観測所を置き、地域防災の中核的拠点として機能強化を図っている。

本センターは、以下のような部門・分野と観測所から構成され、地域防災に関する様々な活動を行っている。

■調査研究推進部門

地震火山防災研究分野：南西島弧地震火山観測所と連携した地震災害、火山災害と防災に関する調査研究

気象水象地盤災害研究分野：気象災害、洪水災害、津波災害、土砂災害と防災に関する調査研究

災害医療総合防災研究分野：大規模災害（地震災害、火山災害、放射線災害など）に対応できる災害医療総合防災に関する調査研究

■防災教育推進部門

- 本学の共通教育、小・中・高等学校、市民講座等における防災教育の企画・運営
- 地域防災の核となる防災リーダーの養成支援、防災士資格取得支援

■社会実装推進部門

- 地方公共団体、地域住民と連携した地域防災に係る課題の解決
- 自治体、自主防災組織、企業等からの防災に関する問い合わせの対応

■南西島弧地震火山観測所

- 地震予知、火山噴火予知に関する調査研究



▶防災・日本再生シンポジウム
(平成29年12月鹿児島市)

司法政策教育研究センター

司法政策教育研究センターは、法科大学院での法曹養成の経験とノウハウを継承し、①法学分野の教育研究の高度化や法律系人材の養成・拡充を実現する基盤の確保、②法科大学院修了後の司法試験受験のサポートを含む法曹志願者の支援、③地域で活躍している法律系人材や各種専門職のニーズに応えるリカレントや職能高度化の場の提供、④臨床法学教育の推進、⑤法律情報のネットワーク上への発信などによって、地域貢献ならびに地域活性化のために大学の知的資産を社会に埋め込む「実装化」の取組を行っている。

【主な活動】

■学部・大学院教育支援

- 高度な専門性を踏まえた実践力を身に付けるセミナーの開催
- ネットワークを活用した教育ノウハウの提供による授業実施支援

■リカレント・キャリア開発支援

- 地域の法曹、諸士業や地域専門職の能力の高度化支援
- 公務員や企業就業者のリカレントやキャリア開発支援

■法曹志願者支援

- 法科大学院説明会の開催などによる法曹志願者への支援
- 法学修生（本学法科大学院修了生）その他の司法試験準備

■社会・地域貢献活動の展開

- センター無料法律相談の実施
- 地域に貢献する臨床法学教育活動（離島での法律相談など）
- 「全国条例データベースpowered by eLen」など、ネットワーク上への法律情報の発信



▶司法政策教育研究センターの諸活動



▶民法改正セミナーの一場面

教育学部附属学校

附属幼稚園

明治12(1879)年4月創立の附属幼稚園は、全国で2番目に古い歴史をもつ幼稚園である。今年度は、3歳児20人、4歳児34人、5歳児33人、計3学級87人が在籍している。研究主題に「遊びの中で育まれる子どもの学び【2年次】～子どもの育ちを共有し、小学校とのつながりを深める保育実践～」を掲げて、本県の幼稚園教育の向上の役割を果たしている。また、学部と連携し研究を深めるとともに、親と子が共に育つ場としての幼稚園を目指している。



附属小学校

附属小学校は創立141周年目を迎え、児童数865名(学級数27)が在籍している。小学校教育に関する理論的・実践的な研究の推進、教育実習の指導の充実、研究や実践の公開による本県の小学校教育向上への貢献という3つの使命をもつ。特に複式教育や外国語教育などの先進的な研究、実践においては、県内外を問わず、多くの教育委員会や学校から視察や講師派遣の依頼を受けている。平成23年度から二学期制を導入し、平成24年度の入学児童から、単式1学級の定員を35名としている。



附属中学校

附属中学校は、創立67年目を迎え、578名(学級数15)の生徒が在籍している。平成21年度には校舎改修工事、平成23年度にはグラウンド改修工事が完了し施設・設備も一新された。校舎に沿うように並ぶ七本の銀杏の木は、その1本1本に校訓である「真理・理想・自律・誠実・友愛・剛健・雄飛」の名をもつシンボルツリーでもある。本校は、「学部と一体となり中学校教育に関する理論的・実践的研究を行う。」「学部の計画に従い、学生の教育実習の場として、その指導に当たる。」「研究会並びに共同研究、教育交流を行い、現職教育の振興に寄与する。」という三つの使命を果たすべく日々前進する学校である。



附属特別支援学校

附属特別支援学校は、知的障害を主な障害とする小学部・中学部・高等部の児童生徒59人が在籍している。特別支援教育の理念の下、「明るく、仲よく、がんばる児童生徒」の育成のため、大学をはじめとする関係機関との連携を図りながら、「一人一人の子供の成長と自立を支え、共に向上し続ける学校」、「附属学校として質の高い研究と教育実習を追求し続ける学校」、「保護者や教育関係者、地域のニーズに丁寧に応え続ける学校」を目指している。



鹿児島大学病院

鹿児島大学病院は、平成15年10月に医学部附属病院と歯学部附属病院を統合し、診療科を疾患機能別に17センターとし、診療体制を再編成した。また、平成28年10月1日から病院名称を鹿児島大学病院とした。なお、病院再開発計画として、平成19年から約16年間の予定で建物の増築・改修を行い、病院機能や建物を統合・集中化し、病院運営の合理化・省力化、患者サービスの向上、先進医療の積極的導入、地域医療の充実を目指している。

平成18年には「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され、鹿児島県におけるがん医療に中心的な役割を果たしている。

また、平成26年4月に、県より救命救急センターとしての指定を受け、平成26年1月にC棟に整備した屋上ヘリポートを有効活用し、救急患者の受入態勢の充実を目指している。なお、平成28年4月には災害拠点病院、平成29年11月には原子力災害拠点病院の指定を受けている。

教育面では、平成25年度に「総合臨床研修センター」を設置し、協力病院と共同で「卒後臨床研修プログラム」を実施し、優れた医師・歯科医師の人材育成に努めており、平成28年8月には、九州の国立大学病院として初めて、厚生労働大臣から看護師の「特定行為研修指定研修機関」に指定されている。

なお、平成30年2月には、医療環境体制の充実と療養環境の向上を目指した新病棟(B棟)が完成し、平成30年3月には、霧島リハビリテーションセンターが、開院した。

診療センター	部門科
循環器センター	心臓血管内科 心臓血管外科
消化器センター	消化器内科 消化器外科
脳・神経センター	脳神経内科 (H30年5月1日～) 脳神経外科
呼吸器・ストレスケアセンター	呼吸器内科 呼吸器外科 心身医療科
腎臓・泌尿器センター	腎臓内科 泌尿器科
血液・内分泌・糖尿病センター	血液・膠原病内科 糖尿病・内分泌内科 乳腺・甲状腺外科
メンタルケアセンター	神経科精神科
小児診療センター	小児科 小児外科
女性診療センター	産科、婦人科
整形・運動機能センター	整形外科・リウマチ外科
感覚器センター	皮膚科 眼科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
放射線診療センター	放射線科 顎顔面放射線科
麻酔全身管理センター	麻酔科 歯科麻酔科
リハビリテーションセンター	リハビリテーション科
発達系歯科センター	口腔保健科 矯正歯科 小児歯科
成人系歯科センター	保存科 歯周病科 冠・ブリッジ科 義歯補綴科
口腔顎顔面センター	口腔外科 口腔顎顔面外科

中央診療施設等

- 検査部
- 手術部
- 放射線部
- 救命救急センター(救急科)
- 集中治療部
- 輸血・細胞治療部
- 周産母子センター
- 全身管理歯科治療部
- 血液浄化療法部
- 病理部(病理診断科)
- 光学医療診療部
- 歯科技工室
- リハビリテーション部
- 中央採液室
- 臨床心理室
- 歯科総合診療部
- 遺伝カウンセリング室
- 外来化学療法室
- 腫瘍センター
- 肝疾患相談センター
- 漢方診療センター
- てんかんセンター
- HIV対策室
- 緩和ケアセンター
- 歯科口腔ケアセンター
- 超音波センター
- ME機器センター
- 探索的医療開発センター
- 医療器材管理部
- 医療情報部
- 総合臨床研修センター
- 医療環境安全部
- 地域医療連携センター
- 医療相談室
- 地域医療支援センター
- 女性医師等支援センター
- 栄養管理室
- 臨床研究管理センター
- 看護師特定行為研修センター

プロジェクトセンター

- 下垂体疾患センター

薬 剤 部
看 護 部
臨 床 技 術 部
事 務 部



▲医科診療棟



▲歯科診療棟・回復期リハビリテーション病棟

附属動物病院

鹿児島大学共同獣医学部附属動物病院は、学部附属の教育施設であり、将来の獣医師を養成するための重要な教育病院である。動物の診断や治療に関する各種研究活動も行っており、地域獣医療の中核病院としても機能している。診療対象動物は、犬や猫といった伴侶動物の他に、地域性も背景とした産業動物の比率も大きく、この分野における機能が充実した数少ない病院でもある。平成20年には他の獣医系大学では類を見ない軽種馬診療センターも設置し、馬の診療にも対応している。共同獣医学部では国際的な獣医学教育に関する認証取得を目指しており、その一環として動物病院を平成29年に、伴侶動物の診療を行う小動物診療センターと産業動物の診療を行う大動物診療センターへそれぞれ新営、改修設置した。

診療時間	9:00～11:30（予約制） 14:00～16:30（予約制）
月～金曜日	19:00～翌6:00（予約制・夜間診療）
休診	土曜日 日曜日 祝祭日



▲動物病院建物外観

附属図書館

附属図書館は、中央図書館（郡元地区）、桜ヶ丘分館（桜ヶ丘地区）および水産学部分館（下荒田地区）の3館で組織されており、教育・研究に必要な学術資料を広い分野にわたり収集し、利用に供している。3館とも、本学の学生・教職員はもとより、地域住民に対しても開放されている。

近年は、ラーニングコモンズとしての機能強化を図るとともに、文献情報データベース、電子ジャーナル等の電子情報資料の整備充実に努めるほか、本学で作成された電子的学術研究成果を無償で国内外に発信する鹿児島大学リポジトリを運用している。

なお、島津久光および玉里島津家の旧蔵書である「玉里文庫」等の貴重書や古書籍等のコレクションも所蔵し、毎年その一部を公開している。

【中央図書館】

開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

休館日

国民の祝日、年末年始等（12月27日～1月3日）

施設

鉄筋地上5階地下2階建（平成8年12月竣工）
総座席数 910席 図書蔵書冊数 1,011,846冊



【桜ヶ丘分館】

開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

（偶数月の第1土曜日は14:00～18:00）

休館日

国民の祝日、年末年始等（12月27日～1月3日）

施設

鉄筋3階建（昭和52年4月竣工、昭和56年5月増築）
総座席数 170席 図書蔵書冊数 183,018冊



【水産学部分館】

開館時間

月～金曜日	土曜日
8:30～20:00	10:00～17:00

休館日

日曜日、国民の祝日、年末年始等(12月27日～1月3日)

施設

鉄筋2階建(昭和45年2月竣工・平成26年3月改修)
総座席数123席 図書蔵書冊数59,549冊



教育関係共同利用拠点

各国立大学が有するさまざまな教育関係施設の中から、我が国の高等教育の重点分野ごとに、施設を保有する大学以外の大学の学生・大学院生にも質の高い教育を提供する拠点を形成していくために、平成21年9月に認定制度が創設された。国立大学からの申請に基づき、文部科学大臣が認定を行う。

水産学部附属練習船かごしま丸

水産学部附属練習船かごしま丸は、平成22年度に、「熱帯・亜熱帯水域における洋上教育のための共同利用拠点」として文部科学大臣より認定され(平成26年度再認定)、水産・海洋系カリキュラムを持ちながら練習船を保有しない全国の大学に質の高い洋上実習の機会を提供している。平成24年3月には、かごしま丸新船が竣工し、30年にわたり活躍してきたかごしま丸旧船の代船として、平成24年度から共同利用に投入された。かごしま丸新船は、電気推進システムと自動船位保持装置を搭載し、横・斜め移動やその場回頭など特殊操船能力を持ち、防振・防音対策を施したことに加え、実験室の拡充により実習環境が大幅に向上した。また、水産・海洋分野の幅広い分野の教育のために搭載した様々な漁具や生物標本採集具、海洋観測装置など最新鋭の設備を活用し、本学及び利用大学の学生・大学院生に高度な洋上教育を実施できる。

拠点認定以降、国内の大学の水産・海洋系学部や研究科による利用に加えて、文系学部や放送大学の全国開放型授業、更には水産学部の主な対象域でもある東南アジア域内の大学に国際共同利用されるなど、充実した共同利用が展開されている。



農学部附属高隈演習林

高隈演習林(垂水市)は、森林・林業に関する教育研究のための附属施設として旧制鹿児島高等農林学校時代の明治42(1909)年に開設された。総面積3061ヘクタール(垂水市の19%、本学が所有する土地の84%を占める)の広大な森林は、100年余り前から先人達が築き上げてきた人工林(屋久杉を起源とするスギやヒノキなど)がおよそ3分の1を占め、残りは南九州を代表する豊かな照葉樹の天然林に覆われている。演習林は主に農学部森林科学コースの学生によって、専門課程の実習や研究等で利用してきたが、平成12(2000)年ごろから専門課程以外の共通教育や他大学の授業で、あるいは地域貢献として児童生徒を対象とした森林環境教育や社会人を対象とした林業技術者教育など、利用の幅が大きく広がるようになってきた。

そこでこれまでの実績を基に、演習林のさらなる有効活用を図るため、平成26年度より高隈演習林は「鹿児島の自然環境と100年の森林から学ぶ森林・環境・防災教育拠点」として文部科学省より教育関係共同利用拠点到認定された。平成26年度～29年度の4年間で39大学から延べ2,278人の利用があり、平成30年度も林業教育、環境教育、防災教育、動植物教育など多様な分野でさらに多くの利用が計画されている。



保健管理センター

保健管理センターは、学生および教職員の心身の健康の保持ならびにその増進を図ることを目的としている。

センターでは、専任の医師、保健師のほか、学医として学内の各科の専門医(内科、神経科精神科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科)による健康相談業務を行い、さらにカウンセラーとして法文学部と教育学部の心理学の教員および臨床心理士が心理相談にあたっており、ソーシャルワーカーによる学生支援もある。

また、卒煙支援の結果解析、定期健康診断の予約システムの確立や診断結果のデータのデジタル化およびその結果解析など、調査研究も活発に行っている。平成25年8月より、桜ヶ丘分室への保健師1名の配置を開始した。



【業務内容】

- 定期健康診断ならびに臨時健康診断と事後指導
- 心理相談ならびに学生支援・職員支援
- 一般診療、急性疾患に対する短期的投薬、他医療施設への紹介・受診指導
- 健康診断証明書発行
- 健康教育活動(学生・教職員への健康啓発講演会開催など)
- 環境衛生および感染症予防に関する指導
- 卒煙支援
- 心肺蘇生法講習会
- 産業医活動

稲盛アカデミー

昭和30年に鹿児島大学工学部を卒業された稲盛和夫京セラ株式会社名誉会長および京セラ株式会社からの寄付により、平成17年に、学内共同教育研究施設「稲盛経営技術アカデミー」として設置し、平成20年に「稲盛アカデミー」へ改組した。

稲盛アカデミーは、「世のため、人のために尽くす高い倫理観と進取の精神を持った『21世紀型市民』の輩出を目標に掲げ、地域社会から望まれるリーダーを育成する」ことを基本理念としている。このため稲盛哲学(フィロソフィ)の探究および継承・発展を基盤に据え、人材育成を目指した教育研究および社会貢献(人間教育、経営教育、地域・国際連携)を展開するとともに、名誉会長創設の国際賞、「京都賞」の受賞者講演会や関係行事などを通じた鹿児島県との連携・協働を図っている。

学内向けプログラム

- 共通教育科目の提供:「稲盛経営哲学」、「進取の精神」などに関わる科目の開設
- 国内体験学習や海外研修などの学習機会の提供
- 京都賞受賞者鹿児島講演会における「鹿児島コロキウム」の開催

学外向けプログラム

- 「履修証明制度」に基づく社会人向けプログラム「稲盛経営哲学」の実施
- 「公開シンポジウム」の実施
- 「稲盛哲学」に関する国内外における研修の支援



総合研究博物館

総合研究博物館は、平成13年4月に旧国立大学では7番目の大学総合博物館として設置された。鹿児島大学とその前身である明治以降の複数の学校で教育や研究に使用された貴重な学術資料を一元的に保存・管理・調査・公開し、これからの教育や研究に資するとともに、鹿児島大学の文化遺産・知的財産に関する情報を社会に広く発信すべく活動を行っている。常設展示のほか、毎年様々なテーマで特別展を開催している。また、ニューズレター・モノグラフ・研究報告の発行など、学内外に向けた出版広報活動と並行して、年に数回、市民講座・研究交流会・公開講座を開き、自然体験ツアーなども行っている。本館が保管している学術標本・資料は、これまでに学内にとどまらず外国も含めて多数の利用があり、これらを利用して得られた成果は学術論文として報告されているほか、学生の卒業論文などにも活用されている。



▲特別展

学術情報基盤センター

学術情報基盤センターは、鹿児島大学の情報基盤を担う中核的組織として、電子計算機システムおよびキャンパス情報ネットワークの運用管理、大学全体の情報セキュリティ対策支援、事業継続計画対策、情報システムの企画・開発・ホスティング・運用、IT相談等、教育研究全般の情報化支援に積極的に取り組んでいる。

特に、情報セキュリティマネジメントシステムJIS Q 27001 (ISO/IEC27001)の認証を取得し、国際的な情報セキュリティ基準の下、安全な情報サービスを提供している。さらに平成28年度からは、サイバーセキュリティ戦略室が設置され、さらなるセキュリティ対策の強化および、事業継続計画対策、セキュリティ啓発活動、緊急を要するセキュリティ事案への迅速な対応を行う体制を整えている。

また、研究開発を行う情報メディア基盤部門、学術情報処理研究部門、情報システム開発部門の3部門が置かれ、それぞれの部門に属する専任教員が情報通信技術に関する研究開発、情報通信技術を生かした地域との連携、マルチメディア教材の研究開発、情報教育支援体制の整備による学内部局との連携、学術情報データの蓄積と発信に関する研究開発を推進すると共に、学内の教育研究の高度情報化に指導的な役割を果たしている。



埋蔵文化財調査センター

鹿児島大学の郡元キャンパスと桜ヶ丘キャンパス、唐湊学生寮と入来牧場等には埋蔵文化財が包蔵されていることが確認されている。埋蔵文化財調査センターは、施設整備事業等にもなつて影響を受けるこれらキャンパス内遺跡の保護対策を講ずることを目的としている。事業としては、校舎建設等工事に伴い発掘調査などの調査を実施し、そこから得られた埋蔵文化財の整理、研究、報告書作成等を行っている。また調査時には、一般市民向けの体験発掘や、遺跡見学会を開催している。



▲発掘調査の様子

北米教育研究センター

米国カリフォルニア州サンフランシスコに、海外拠点として北米教育研究センターを置いている。平成16年に産学連携ベンチャービジネス部門のシリコンバレー・オフィスとしてスタートし、平成20年に全学組織へと発展した。平成23年には、本学のランチ・オフィスとしてカリフォルニア州における法人登記を行い、名実ともに海外拠点としての体制を整えた。センターは、1) 学生海外研修やインターンシップの実施、2) 北米における大学や企業等との連携、3) バイエリア地区に拠点を置く日本の大学間ネットワークであるJUNBAへの参加、情報交換などを行っている。



▲カリフォルニア学生海外研修の様子

フィリピン大学ビサヤス校リエゾン・オフィス

鹿児島大学水産学部のキャンパスに、同学部と学術交流協定を締結しているフィリピン大学ビサヤス校(UPV)の日本オフィスが平成18年4月に開設された。水産学部のフィリピン・オフィスは平成18年2月にUPVのミアガオ・キャンパスに開設されており、平成19年12月には両者の協定は大学間協定に改定された。大学間協定大学とリエゾン・オフィスを相互に開設するのは、鹿児島大学としても初めてである。

水産学部は、平成10年度から「フィリピンにおける水産資源と水圏環境の管理と保全に関する研究」をテーマに、UPVと拠点大学方式による研究交流を行ってきた。さらに、平成20年度から「水圏環境の保全と管理」を主なテーマとした、アジア研究教育拠点形成という国際的な事業を行った。その結果、研究交流が各教員レベルに根付いており、平成27年度から開始された国際連携プログラム「熱帯水産学国際連携コース」などによる大学院生の交流も活発化している。



▲フィリピン大学ビサヤス校

稲盛アカデミーベトナム事務所

平成19年に鹿児島大学はベトナム社会主義共和国ハノイ市のベトナム社会科学院と学術交流協定を締結し、その後、ベトナムにおける教育研究及び社会貢献に係る国際活動を推進するために、ベトナム社会科学院から施設の提供を受けて、平成21年6月に稲盛アカデミーベトナム事務所が開設された。

ベトナム事務所には客員教授を配置し、(1)ベトナム社会主義共和国における本学の学生及び職員の教育、研究、研修等、(2)ベトナム社会主義共和国内の大学との共同研究、(3)ベトナム社会主義共和国学生の日本への留学支援、(4)その他ベトナム社会主義共和国における教育、研究及び社会貢献に係る国際活動を推進するなど、国際的な交流活動を行っている。



▲この建物の11階に事務所が入っている

鹿児島大学奄美群島拠点

奄美群島拠点は、鹿児島大学の機能強化の一環として、奄美群島における地域活性化の中核的拠点として教育、研究及び社会貢献活動を推進し、地域課題を解決することを目的として設置された。この拠点は、(1)国際島嶼教育研究センター奄美分室、(2)奄美島嶼実験室、(3)奄美サテライト教室、(4)徳之島サテライト教室、(5)与論水産実験室の5つの施設から構成されている。

国際島嶼教育研究センター奄美分室(奄美市)

国際島嶼教育研究センター奄美分室は、奄美群島拠点の5つの施設の中で唯一教職員が常駐しており、奄美群島拠点の中核的施設である。平成27年4月に奄美市名瀬の旧名瀬保健所跡に設置された奄美分室内には、教職員スペースのほかに、中学生・高校生に鹿児島大学や大学生活を紹介するスペースや奄美群島の社会・文化・自然などに関連する書籍を準備し、教育・研究及び地域貢献を推進することを目的としている。また、この施設の近くには、奄美島嶼実験室(名瀬公民館金久分館内)や教職員・学生が利用できる宿泊所(名瀬長浜町)がある。



▲分室内の大学紹介スペース

奄美サテライト教室(奄美市)・徳之島サテライト教室(徳之島町)

平成16年度、全国にも例のない離島でのサテライト教室が奄美市(旧名瀬市)に設置された。離島地区に高度専門教育サービスを提供することを目的として、平成19年度には徳之島町にもサテライト教室が開設された。

科目等履修生を中心にした受講生とサテライト教室出身の正規大学院生が集まり、熱心な授業が継続的に行われている。特に、人文社会科学研究科では、サテライト独自の講義科目「奄美プロジェクト研究」を開設し、離島の受講生のキャリアアップに役立つような講義テーマを設定している。



▲授業風景

